

令和8年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大宮南小学校】

①	今年度の目標と学力向上策
重点的に育成する 資質・能力	・自らの課題を見つけ、解決するための方法を考え、行動(説明・議論など)できる資質・能力
↓	
実施する学力向上策 【時期・頻度】	・教科横断的な視点で各教科の単元を関連付け、今まで学習したことを他の教科でも活用する授業を実施する。これまでに調べたことや知ったことを材料とし、「話したい。」「書きたい。」と思えるようにすることで、主体的な課題解決につながる授業を設定する。また、本年度の学習を振り返り、次年度へ向け、教科ごとの関連付けを図る。【毎学期】 ・考えを整理する活動を設定する。ペアやグループで考えを伝え合う活動を取り入れ、「なぜそう考えたのか」「どの資料や事実を根拠にしたのか」を説明する場面を設ける。その中で、根拠をもとに考えを表現する経験を積み重ねることで、思考力・判断力・表現力の向上を図る。【単元に1回以上】

⑤	年度末評価	
学力向上策の 実施状況	評価(※)	調査結果分析(2月) ①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握)
↓ 年度末評価に向けて 職員会議・校内研修等		
今年度の成果と 次年度の課題	結果提供(2月)	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	本校の平均正答率は、国語・算数の全ての観点において、全国平均を大きく上回る結果となった。 児童質問調査では、自己調整力(個別最適な学び)、主体的・対話的な学び(協働的な学び)の項目において、肯定的な回答をする児童の割合が、全国平均・埼玉県平均よりも上回っている。 また、5年生までの学習を振り返る質問では、国語「文章を引用し、自分の考えが伝わるように文章を書いていく」「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめた」という項目において、「実践できていた」と肯定的に答える児童が約95%であった。算数「どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていたか」の回答は、82%(全国67%より+15)だった。
↓	
結果から考えられる 児童生徒の実態	・多くの児童が、自分の課題と向き合い、解決するための方法を考え、主体的に学習を調整することができている。つまずきのある児童は、友達のことを聞いたり、先生からアドバイスをもらったりすることで、自分の考えをもつことができるようになっていく。 ・児童が安心して、自分の考えを伝えたり、相手の考えを聞いたりすることができている。より多くの児童と考えを共有しようとしている。

④	さいたま市学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	
↓	
結果から考えられる 児童生徒の実態	①学校全体での取組 ②単元テスト・定期テスト等の分析・活用 ③中間評価を経ての取組 ④調査結果を活用した授業

③	中間評価
学力向上策の 実施状況	評価(※)
	A
↓	
学力向上策の 見直し	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

教育研究所